

5. 事業実現化における課題

今後、美浜町総合公園周辺を地域交流拠点として整備し事業化を進めていくに当たっては、以下のような課題が挙げられる。

(1) 効率的・効果的な事業の推進

構想案の実現を進める上で、人口減少社会や少子高齢社会の進展に伴い、財政投資余力の低下や集中的な費用投入が困難な状況が予想される現状においては、国が推進する『財政に頼らない成長』を基調とする官民協働の取組みが求められる。

したがって、構想案の実現に向けて多様な主体が地域経営の視点から参画し、ハード・ソフトの両面で役割を分担し合うとともに、生活環境などの地域の魅力を高め、一方で、人を惹きつける新たな魅力づくりを進めていくなど、効率的で効果的な事業の推進を図っていくことが重要となる。

そして、そのためには、ホームページや広報誌等を活用した情報公開やパブリックコメントの実施による意見募集等、計画案を広く地域に浸透させるとともに、地域住民とのビジョンの共有化を推進していく必要がある。また、PFI手法に代表される、民間の知恵と資金の積極的な導入により効果的な公共投資を実施していくことなど、新たな時代にあった、多様な主体が参画可能な仕組みづくりや手法の活用等を検討していくことが求められる。

(2) 地域との連携関係の構築（既往のまちづくり活動、企業等との関わり）

計画地周辺については、美浜町都市農村交流協議会や布土まちづくり推進委員会の活動、美浜町の様々な行事が実施されるとともに、観光施設として多くの来訪者のある「えびせんべいの里」、「ジョイフルファーム鶉の池」などの地元企業・団体等の様々な主体がまちづくりの素地となるような活動を進めている。また、愛知県道路公社では、「美浜PA」の利用促進の一環として、観光案内等のための情報施設や緑地、ドッグランの整備構想が検討されている。

今後の事業実現化に向けては、これらの計画地周辺で展開される各種の取組みについて、機能分担・機能補完の観点での整合を図り、行政を中心として様々なまちづくり活動が有機的に繋がり合うよう、組織間の情報交換・交流など連携の強化を図る必要がある。また、地域活性化に向けた視点を始め、財政、文化、福祉、コストなどの多角的な視点から総合的にコーディネートしていくことが求められる。

さらに、持続性のあるまちづくり活動の構築、地域活力の増進、住民の地域への愛着や満足度の向上を図るためにも、多くの住民が参画できるまちづくりの取組みを推進していくことが求められる。

(3) 自立的なまちづくり組織の整備

一過性の活動ではなく継続的にまちづくり活動を推進していくためには、組織の自主性や主体性の高い自立したまちづくり組織を整備することが重要となる。

そのためには、まちづくり活動の参加者が活動意欲を持続できるような活動体制の構築や、まちづくり活動の財源を行政に 100%頼ってしまうのではなく、自分たちである程度の運営資金が捻出できる事業モデルを検討していく必要がある。

例えば、地域住民の中から輩出したリーダーを中心とした組織を構築し、地域の本質（自然、味、文化）を見せられる地域産にこだわった野菜の販売所を設け、地元で経済的な見返りが還元される組織の仕組みづくりを行うことで、活動組織自体に経済的な自立性をもたせるきっかけづくりを行うとともに、参加者のまちづくりへの活動意欲を高め、継続的なまちづくりへの意識付けができると考えられる。